

■ 区群の評価

◎良い4点 ○まあ良い3点 △努力2点 ×1点関連がない・不十分

群	下位項目	評価内容と基準	平均	コメント	方向性
IX 研究	研究的姿勢の涵養	64 教員の研究活動は保障(時間的、財政的、環境的)されているか	2.5	<p>・I～IX群の中で一番低い結果となっている。大学のように研究活動が必須でないため各自のニーズに任せることにもなるが、令和6年度の自己評価委員会では、専修学校においては日頃の授業研究への置き換えで良いと助言を得ている。各自が研究的姿勢のもと取り組めていれば評価を上げて良いため、評価視点の共通理解を推進していく。</p> <p>・研究活動へのニーズがあるにも関わらず、活動に至らない要因が保障・体制等の不十分さで占めているようであれば整備が必要となる。財政的保障については、日頃学会への参加はできているため学会発表時の費用については確保しやすい。活動過程における研究費の確保についてはハードルが高いため、市での確保が困難であれば、研究費助成の活用を検討していく。時間保障に関しては他の評価項目同様の課題であるため、従業務全体からの整備も要している。</p>	<p>研究活動の位置づけの確認と評価視点の見直し。</p> <p>授業研究実施に伴う体制の整備。</p> <p>研究活動ニーズの把握。</p>
	研究活動の保障と評価	65 教員の研究活動を助言・検討する体制が整っているか	2.6		
		66 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所にあるか	2.5		
IX群平均			2.5		
総合平均			3.3		